



樹里安だより

ジュリアン

2004年3月
Vol.15



.....安行の名所 (その二)

赤山城跡 《川口市赤山》

関東郡代伊奈氏の知行地陣屋。伊奈忠治が赤山領7000石の地を知行するのを機に、小室陣屋から赤山へ陣屋を移した。忠治が屋敷を設けた時期は元和4年(1,618年)、寛永6年(1,629年)、19年(1,642年)など諸説がある。伊奈氏は忠治から10代163年にわたり関東郡代を世襲し赤山陣屋を本拠に幕府代官として多くの業績を残した。



源長寺の

ヒマラヤスギ

(川口市赤山1,285)

源長寺は、関東郡代・伊奈忠治によって元和4年(1,618年)伊奈氏の菩提寺として再興された。伊奈氏は江戸時代、関東郡代を世襲した旗本家で、用水の開さくや新田開発など治水・利水事業に数多くの業績を残したことでその名を知られている。このお寺は、地下鉄、新井宿駅から徒歩5分くらいの場所にある。年の瀬が迫る12月に訪れてみた。この日はよく晴れていて、12月だというのにたいへん穏やかな陽気であった。抜けるように青い空が広く見える。澄んだ空気がおいしくてたいへん気持ちよかった。口笛を吹きながら、250メートルほどある一直線の参道を歩いて行った。お寺の入り口につくと今回の主役ヒマラヤ杉がいきなり雄大な姿を見せた。立派な木だ。力強く、たいへん迫力があり、「私はこの寺の主だぞ」とでもいいかげである。のぞき込み、見上げてみると、太い枝が大男の両腕に見えるのは思い込みであろうか。こげ茶色で太く固い幹からはとにかく男っぽさを感じた。お寺の方に尋ねてみると昔は、もっとこの木が植えてあって杉並木のようにになっていたという言い伝えもあるそうだ。境内にはたくさんの梅がある。春先にカラフルに彩られるのだろう。想像するだけで何かワクワクしてしまった。

畑の向こうの首都高速を見ながら、ゆっくりと時間が流れていった。



源長寺の保存樹木

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在	幹周	樹高
ヒマラヤスギ	マツ科	H12.9.1	47	赤山1285	2.2m	16.0m

ヒマラヤスギ

Cedrus deodara Loud.

(別名 ヒマラヤシーダー)

マツ科 ヒマラヤスギ属

- 分布：インド・ヒマラヤ 温帯
- 高さ：45m。幹周り9mになる常緑針葉高木
- 用途：洋風庭園用樹 公園用樹 景観樹 記念樹 生垣用
- 陽樹：
- 10月～11月に開花 雄花は穂状で長さ約3cm。雌花は円錐形で淡緑色。球果は長さ6～13cmの卵形で翌年の10～11月に成熟すると花鱗が落ち、果軸だけ残る。生長は早い、風に弱い、萌芽力あり、耐寒力は強い。マツカレハ幼虫の被害がある。
- 樹形が美しいことから世界3大庭園樹の一つとして数えられる。
- 学名中にあるデオダラとはインドのヒンズー語で神の樹という意味。梵語（古代インドの文語）でデワダル。これも聖樹で神がこの樹に住むといわれる。インドでは貴重な薬木で多くの伝説が伝えられている。



《源長寺のウメ》



《源長寺の梅林》

アマドコロ（斑入り） 別名：ナルコユリ

Polygonatum odoratum var. *pluriflorum*

より彩りのある、お庭をつくるために利用される素材としてグラウンドカバー類（地被植物）があります。地味ながらその存在感は際だっています。これがあるのとないのでは、仕上がり度がまったく違います。

このアマドコロ（斑入り）は、お庭の樹陰地の地被として利用したり、優美な姿を楽しむために花壇の手前に植えたりします。

シンプルですが、春から夏までのお庭に涼しげな雰囲気を作り出します。白い斑が入り葉が汚くなる8月くらいまで楽しめます。ほとんど、管理にも手がかからず、日陰にも強いので、お庭づくりにはもってこいの素材と言えます。



アマドコロ（斑入り） *Polygonatum odoratum* var. *pluriflorum*

ユリ科アマドコロ属

- 原産地：北海道～九州
- 開花期：4月～6月
- 高さ：40cm～60cm
- 枝張り：40cm～60cm
- 緑色の葉に白い斑が入る
- 落葉性（冬）
- 日照：半日陰を好む
- 土壌：土壌はあまり選ばないが水はけよく乾燥しすぎない場所を好む
- 管理：丈夫で育てやすく、ほとんど管理を要しません

資料提供：（社）日本植木協会青年部埼玉支部川口青年部

植物の文化（年中行事と植物）

五節句（その2）

その3 端午：菖蒲の節供

陰暦5月5日の節供。古く中国ではこの日に薬草を摘み、また、蓬よもぎでつくった人形や菖蒲を門戸に掛け、蘭の花を浮かべた湯に入り、菖蒲を浸した酒を飲んで病気や災厄をはらいしました。日本でも芳香のある菖蒲、蓬に災厄を避ける力を認め、これらを体に付けたり、軒にさして邪気を祓う風習がありました。江戸時代以後、尚武の節供として、男子の節供とされた武家では、

甲冑かっちゅうや幟のぼりをかざり、町人も武者人形などを飾り鯉のぼりをたてるようになりました。ちまきや柏餅を食べ、菖蒲湯に入る習慣があります。現在子供の日になっています。菖蒲はサトイモ科の植物で、アヤメ科の花菖蒲や綾目ではありません。



その4 七夕

陰暦7月7日の節供。牽牛星けんぎゅうせい（わし座のアルタイル）と織女星しよくじょせい（こと座のベガ）の2星が天の川を挟んで頭上に輝くことから、年に1度会うことができるという伝説が生まれました。牽牛星は農事を知る基準となり、織女星は養蚕や裁縫を司る星とされてきました。これが、奈良時代に手芸、芸能、の上達を祈願する乞功での習俗として中国から伝わり宮中で行われました。

この夜に神を迎えて翌日送り出し、豊作の平穏無事を祈った、「棚幾つ女の祓い」という日本古来の信仰とが合わさり、近年に現在の「七夕」として民間に普及しました。七夕祭り、星祭りともいいます。



その5 菊の節供

陰暦9月9日の節供、月日とも陽数の9が重なるところから重九とも呼んで、めでたい日とされました。中国から伝わり、平安時代に宮中の年中行事となって、観菊の宴が催されました。中国の古い風習に、小高い丘に登って菊酒を飲むと災厄が祓われるとしたもので、河南省（かなんしょう）、南陽群（なんようぐん）の菊水で谷間に咲く大菊から露が滴り落ち、この水を飲んだものは長寿であったという菊慈童（きくじどう）の伝説にちなみ、菊がこの節供に不可欠なものとされました。今では花札の図案にその名残りととどめています。全国的にも陰暦9月9日を秋祭の日とする風習があり、「おくんち」や「おくにち」と呼ばれる収穫祭の名も重陽の節供にちなみます。





記念樹にふさわしい木とそのいわれ（その2）

父や母への感謝

サツキ

ツツジ科 ツツジ属（常緑広葉樹・低木・陽樹～中陽樹）

五月雨、早苗、五月晴。日本の自然が輝くように活力を増す季節。その季節の明るさを、さらに明るくしようとでもいうように、いっばいに花卉を広げる。自分の美しさを知らずに働く律儀者を思わせる。野生種は河岸の岩地などに自生していたが、愛されて普及し盆栽にまで。そのような思いを込めて、父や母への感謝のしるしとして…。



1. 特徴

開花期 5～6月、結実期 10～11月。盆栽用の品種が多い。

2. 植えるときの注意

時期 3～4月

場所 排水がよく保水力もある日なたを好む。低湿地は向かない。

3. 管理のポイント

せん定は花が終わったらすぐに行う。病害はあまりないが、ルリチュウレンジハバチ、ツツジゲンバイムシなどが発生したら、殺虫剤などで早めに駆除する。

《他の木》



ユズ

常緑広葉樹
高木・陽樹



ウメ

落葉広葉樹
小高木・陽樹



ジンチョウゲ

常緑広葉樹
低木・中庸樹・雌雄異株



アジサイ

落葉広葉樹
低木・中庸樹～陰樹

参考：日本緑化センター 木を植えよう 記念樹にふさわしい木とそのいわれ



川口緑化センターの主なイベント（結果報告）



ミニ庭園展示会

平成15年10月11日(土)～13日(月)

川口市内の業者が90cm×150cmのスペースに和風・洋風様々な庭園を作りました。一般の方にも参考になる作品が多く、たくさんの来場者がひとつひとつ興味深く眺めていました。



「70」を祝ういけばなと花の作品展

平成15年10月18日(土)～19日(日)

市制70周年を記念して70の数字をイメージしたいけばな作品の展示・講習会を実施し、いけばなの普及・啓発を図りました。



おもと名作展

平成15年11月8日(土)～9日(日)

江戸時代から人気のある古典園芸植物であるおもとの展示販売会を開催しました。その葉の変化の多様さ、豪華さは見事の一言でした。



フレッシュ野菜販売

平成15年11月8日(土)～9日(日)

11月22日(土)～23日(日)

11月29日(土)～30日(日)

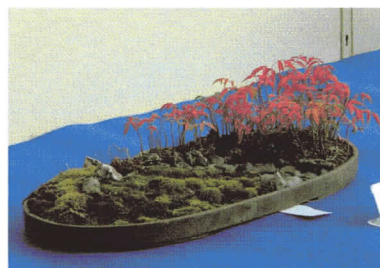
ネギ、大根などの地元産野菜、じゃがいも、たまねぎなどの北海道滝上産の野菜などの販売を11月の3週にわたり実施しました。22日(土)・23日(日)には先着100名様にけんちん汁の無料配布を実施し、来場者に好評でした。



紅葉展

平成15年11月21日(金)～24日(祝)

山もみじやハゼなどの美しく紅葉する姿を来場者は楽しみました。また23日には琴演奏会が実施され雰囲気のある行事になりました。



松竹梅の寄せ植え講習会

平成15年12月13日(土)

新春を祝う松竹梅の寄せ植えの講習会を実施しました。松竹梅の寄せ植えの仕方管理方法・飾り方などを受講者に丁寧に指導しました。





土について (その二)

- ★ 川 砂 : 川砂は山野草やサボテンなどに利用されます。花崗岩から生じた灰色の砂で通気性に優れます。保水性、保肥性がやや劣るのが欠点です。矢作砂、天神川砂など各地のものがあります。改良用土として通気性の改善にも使います。

- ★ 山 砂 : 山砂は、保水性・保肥性がよく、容器植え用、芝生の目土用に利用されます。弱酸性で、粘土分が多く粒子が細かいので通気性が悪いのが欠点です。

- ★ 富士砂 : 富士山の周辺に産する火山砂礫です。黒くて重く、東洋ランや山野草の基本用土としてよく利用します。そのほか通気性をよくする改良用土としても使います。

- ★ 桐生砂 : 群馬県桐生市付近で産出される硬質の火山灰土で、風化の進んだ赤褐色をしています。通気性と保水性に富み、酸性で鉄分を多く含みます。東洋ラン・盆栽・おもと・山野草などの栽培に適します。

- ★ 日向砂 : 宮崎県の日向地方産で産出する硬質の火山灰土。通気性・保水性に富み、山野草・盆栽・ランの栽培に適します。



川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成16年3月1日

発行：財団法人 川口緑化センター

〒334-0058 川口市安行領家844-2

TEL 048-296-4021

ホームページ：<http://www.sainet.or.jp/~jurian/>

